

第107回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

日時	2026年6月25日 19:30～20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	長尾・大山(アステム D 棟)、友田・下木(アステム C 棟)、森(芦屋浜第1住宅)、梅谷(浜風町第1街区)、保田(浜風町第4住宅)、北中(浜風町第5住宅)、谷野・末友(新浜町住宅)、三浦・池西・小谷(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、北山純・喜多山恵・山口(アステム A・B 棟)、中村(芦屋浜第2住宅)、小林(緑町西)、河本・池田(緑第二住宅)、児島(緑第三住宅)、西川(緑第四住宅)、向井(潮見第二住宅)、春木(南浜1街区)、寺前(市議)、川島(市議) 合計27名
議題	1. 実証実験に関する住民説明会 2. パイプラインの運転状況 3. 廃棄物減量推進審議会の報告 4. ワーキンググループ報告(実証実験の経過報告等) 5. ごみ減量対策—生ごみはもっと減らせる 6. その他

1. 実証実験に関する住民説明会

【説明】

実証実験に参加する各地域で住民説明会を開催したことが報告されました。

説明会では、パイプライン停止後のごみ収集方法を実際に体験する実証実験の目的や実施方法について説明が行われました。実証実験は、将来の収集方法を決定するための基礎資料を得ることを目的としており、市が一方的に方式を決めるのではなく、実際に住民が利用した結果や意見を反映させることを重視しています。

説明会では、ごみカートや金網ボックスなどの収集方法、収集回数、ごみ出しルール、アンケートの実施方法などについて説明が行われました。また、実証実験期間中に寄せられた意見や課題は、今後の制度設計に反映させることが説明されました。

参加した住民からは、ごみ置場の場所や衛生面、カラス対策、管理方法などについて多くの意見が出され、市からは「実証実験を通じて課題を整理し、より良い方法を検討していく」と説明がありました。

【結論】

実証実験は住民参加型で進め、その結果を今後の収集方法の検討に反映させることを確認しました。

2. 2026年4～5月 パイプライン運転報告

【説明】

2026年4月から5月までのパイプライン運転状況について報告がありました。期間中のトラブルは合計60件で、そのうち利用者のマナーに起因するものとして、鍵の誤操作によるトラブルは1件でした。

一方で、段ボールや衣類など投入禁止物がパイプラインへ捨てられたことにより、輸送管内で雨水と混ざってヘドロ状となり、作業員が管内から手作業で取り除かなければならない事例が発生していることが報告されました。このような作業は通常の統計には表れませんが、現場では大きな負担となっています。

また、施設は築 45 年以上が経過しており、利用者のマナー違反だけでなく、設備の経年劣化による故障や性能低下もトラブルの大きな原因となっていることが説明されました。さらに、現在は利用者の利便性を優先し、満杯になっていない投入口も毎朝一斉に吸引していますが、その結果、電力を多く消費している状況にあります。今後は投入口ごとの利用状況や時間帯別データを分析し、省エネルギーと利便性の両立を図る検討を進めることが報告されました。

【Q&A】

Q. 満杯になっていない投入口は吸引しなくてもよいのではないか。

A. 電力削減には効果が期待できるが、朝の通勤・通学時間帯にごみが捨てられなくなる可能性があるため、利用状況を十分分析したうえで慎重に検討する。

【結論】

設備の老朽化対策と利用者マナーの向上を進めるとともに、データ分析による効率的な運転方法を検討していくことを確認しました。

3. 廃棄物減量推進審議会報告

【説明】

芦屋市廃棄物減量推進審議会で示された現状と今後 5 年間の方針について報告がありました。

家庭ごみ排出量は減少傾向にある一方で、紙類などの資源回収量やリサイクル率は低下しており、今後の大きな課題となっています。

また、2030 年 4 月からプラスチックごみの分別収集を開始する予定であることが示されました。神戸市など周辺自治体との連携も踏まえ、今後具体的な収集方法や分別方法が検討されます。

市民アンケートでは、ごみ減量への関心は高いものの、紙資源の分別方法やリチウムイオン電池の処分方法について十分理解されていないこと、分別アプリの利用率も低いことが紹介されました。

委員長からは、今後は紙資源の分別を最優先課題とし、情報発信をさらに強化する必要があるとの説明がありました。

【Q&A】

Q. プラスチックごみの分別はいつ始まるのか。

A. 現時点では 2030 年 4 月から開始する予定である。

【結論】

紙資源の分別促進、リチウムイオン電池の適正処理、プラスチック分別開始に向けた周知を重点的に進めることを確認しました。

4. 高浜 2 地区パイプライン停止問題

【説明】

高浜 2 地区では、投入禁止物による閉塞事故を受け、現在もパイプラインの運転停止が続いています。

その間は臨時収集を実施していますが、ごみカート周辺ではカラスによる散乱や悪臭が発生し、多額の収集費用も必要となっています。

この問題を改善するため、利用者の会から芦屋市へ提案書を提出しました。

主な内容は、

- ・ 金網式ごみステーションの設置
- ・ 英語・中国語・ベトナム語など多言語による啓発
- ・ UR による入居時のごみ出しルール説明の徹底
- ・ パイプラインの段階的再開

などです。

また、利用者の会からは、ごみ問題は外国人問題ではなく、短期賃貸住宅における管理体制の問題であり、管理者責任を明確にする必要があるとの意見も示されました。

【Q&A】

Q. 金網式ごみステーションは設置されるのか。

A. 芦屋市は設置する方向で検討しており、8 月中旬までの整備を目標としている。

Q. パイプラインはすぐに再開するのか。

A. ごみの内容を確認しながら段階的に再開することを提案している。

【結論】

高浜 2 地区の早期復旧を目指し、市・UR・利用者の会が連携して改善策を進めることを確認しました。

5. 実証実験の進捗報告

【説明】

パイプライン廃止後を想定したごみ収集方式の実証実験について進捗報告がありました。

対象地区は、

- ・ 高層住宅：アステム A・B 棟
- ・ 中層住宅：ラベル 2・3
- ・ タウンハウス：浜風住宅
- ・ 戸建住宅：緑町西

となり、8 月から順次開始されます。

実証実験では、ごみカート、収納庫、金属ボックスなど複数の方式を比較しながら、安全性、利便性、景観、臭気、管理負担、収集作業のしやすさなどを評価します。

実験終了後には住民アンケートを実施し、その結果を今後のごみ収集方法の検討に反映させる予定です。

委員長からは、「行政が一方的に決めるのではなく、市民も参加して最適な方法を作り上げていくことが重要である」と説明がありました。

【Q&A】

Q. 実証実験では何を評価するのか。

A. ごみの出しやすさ、安全性、景観、臭気、清掃負担、収集効率などを総合的に評価する。

【結論】

実証実験を予定どおり開始し、その結果を将来の収集方式の検討資料として活用することを確認しました。

6. 生ごみ減量への取り組み

【説明】

家庭ごみの約 8 割は水分を含む生ごみであることから、生ごみ減量の必要性について説明がありました。

対策として、

- 食品ロスを減らす
- 水切りを徹底する
- 生ごみ乾燥機を利用する
- 冷凍保存する
- コンポストで堆肥化する

などの方法が紹介されました。

委員長からは、家庭用生ごみ乾燥機を実際に購入し使用した体験が報告され、水分が大幅に減り、ごみの重量や臭いの軽減効果があることが紹介されました。

また、現在は市の補助制度はありませんが、生ごみ減量はごみ処理費や CO₂削減にもつながるため、今後も普及を進めたいとの説明がありました。次回会議では実機を持参し、使用状況を紹介する予定です。

【Q&A】

Q. 指定ごみ袋不足は解消したのか。

A. 芦屋市では透明・半透明袋の使用期間が延長されることとなった。(9 月末まで延長の発表がありました。)

Q. 生ごみ乾燥機の効果はどうか。

A. 水分が大きく減り、臭いも抑えられるため、生ごみ減量に一定の効果がある。

【結論】

食品ロス削減を基本とし、水切りや乾燥機など家庭でできる取り組みを進め、ごみ減量と CO₂削減につなげていくことを確認しました。

NEXT ACTION

- パイプライン運転データを分析し、省エネルギー運転の検討を進める。

- 高浜 2 地区の金網式ごみステーション整備と段階的なパイプライン再開について市・UR と協議を継続する。
- 多言語によるごみ出しルールの啓発資料作成を市へ要望する。
- 8 月から実証実験を開始し、アンケートによる評価を実施する。
- 紙資源の分別とリチウムイオン電池の適正排出について周知を強化する。
- 生ごみ減量の普及を図るため、次回会議で家庭用生ごみ乾燥機の実演を行う。

以上